令和7年度第1回寝屋川市地域福祉計画
推進委員会 会議要旨

会議の名称	令和7年度第1回寝屋川市地域福祉計画推進委員会
開催日時	令和7年5月21日（水） 午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	寝屋川市立保健福祉センター5階会議室1・2
出席委員	岡田委員長、伊与田副委員長、木下委員、河瀬委員、宮本委員、近藤委員、乾委員、松下委員、鈴木委員、朽見委員
欠席委員	林堂委員、田中委員
案件	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開・非公開について 2 委員長及び副委員長の互選について 3 第4次市地域福祉計画に位置付ける事業の令和6年度取組について 4 第5次市地域福祉計画の骨子案について
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
傍聴者の数	2名
所管部署 (事務局)	福祉部 福祉総務課

事務局	<p>次第1 会議の公開・非公開について 公開で異議なし</p>
事務局	<p>次第2 委員長及び副委員長の互選について 委員の互選により、委員長は岡田氏に、副委員長は伊与田氏に決定</p> <p>(寝屋川市地域福祉計画推進委員会規則第5条第1項の規定に基づき、岡田委員長を議長とし、議事進行)</p>
委員長	<p>次第3 第4次市地域福祉計画に位置付ける事業の令和6年度取組について</p>
事務局	<p>次第3について説明(資料2・資料4)</p>
委員長	<p>現在推進されている第4次市地域福祉計画の説明をいただいた。</p> <p>委員のみなさんの立場から何か意見や質問等あるだろうか。</p> <p>これまで重層支援については会議の中で意見をいただいたが、説明にあったように相談受付も4件ということで、これが多いか少ないかはまだ走り出したところということで理解いただければと思う。1件については支援プランの作成まで至っているということで、滑り出しとしては良いかと思う。</p> <p>事務局として、この重層的支援会議や推進会議の中で何か特徴的な意見、質問があれば紹介いただければと思うがどうか。</p>
事務局	<p>そもそも重層というものの自体が難しく理解しがたいところがあるので、当初は戸惑いの声もあったが、皆、困っている市民を助けたいという思いは当然市役所職員としてあるため、協力的</p>

	<p>な意見が多かったと感じている。今後も連携体制を強化し、ケースの内容については様々なパターンがあるため、そういった経験を積むことで我々も知見や経験を積み、早い段階で解決できるようなスキルアップをしていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>それぞれ背景や抱える課題など複雑化していると思うので、知見を積み重ねて経験則で次に当たっていくことが重要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>新規で取り組んだヤングケアラー問題だが、実態調査でどういう実態が見えてきたのかうかがいたい。</p> <p>避難行動要支援者名簿について、名簿を整理し、消防組合と民生委員、地域協働の一部に名簿を提供したとのことだが、同意の仕方や同意を増やす方策で研究工夫した点があれば、分かる範囲で教えてほしい。</p> <p>重層的支援はまだ走り出したところだとは思いますが、障害者の家族の中でも障害者と介護が必要な人を抱える家族があり、その問題解決が多機関にわたる点では、これまでの縦割り行政ではなく横のつながりを重視した多機関協働の庁内連絡会等について期待しているのでぜひ推進してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>ヤングケアラー調査の結果については、昨年7～8月にかけて、居宅介護支援事業所、障害者サービス事業所、保育所、庁内の生活保護ケースワーカー等、ヤングケアラー関連機関へのアンケート調査を実施し、回収率は約2,500人中837人で約37%の回答であった。</p> <p>後追い調査のためにアンケートには任意で回答者名の欄を設けており、その結果、後追い調査が実施できたのは8人のヤングケアラーで、実人数は3人であった。</p>

事務局	<p>後追い調査の結果、1家族については既に当課で支援している家庭であり、残り2人については、調査の結果ヤングケアラー状態ではなかった。今回の調査で新たなヤングケアラーを発見したわけではないが、こうした調査をすることで関係機関へのヤングケアラーについての啓発等を行えたと考えている。</p> <p>避難行動要支援者名簿の同意については、窓口には本人ではなく関係者の方が来た際に、同意の周知を行うとか、あるいは本人や家族が来られた際に声をかけるという話を聞いている。</p> <p>そこでどの程度実績が出たかや、この他に試されていること等については、確認させていただきたいと思う。</p>
事務局 (後日回答)	<p>高齢介護室では、防災課へ避難行動要支援者名簿を提供しているのみである。</p> <p>障害福祉課では、窓口へ手帳の受け取りに来られた方で、対象の手帳等級である方には案内文を配布し、説明をしている。その際の質問については適宜窓口担当職員が回答している。</p> <p>防災課では、同意書や案内書については、はじめてご覧いただく方に理解していただけるよう、イメージ図を活用し、簡潔な記載内容に更新するとともに、障害福祉課と連携し、手帳交付時の窓口で避難行動要支援者名簿の説明を行っている。今後も、皆様のお声をいただきながら、同意率の向上に努める。</p>
委員	<p>子どもへの暴力防止プログラムの実施について、取り組み実績に記載があるが、これについて分かる範囲で説明をお願いしたい。また対象者について、子ども同士のいじめはよくあるが、それに関わる保護者と学校との対応、担当課との対応についても分かる範囲でお願いしたい。</p>

事務局	<p>こちらについては答えることが難しいため、担当課に詳細を確認し後日お伝えしたい。</p>
事務局 (後日回答)	<p>CAP実施団体の職員2～3名が全市立小学校の3年生及び6年生の各クラスを訪問し、ワークショップ形式にて連続2時限分の講義を実施している。プログラム終了時には監察課の職員が各小学校を訪問し、いじめ防止のための啓発活動を行っている。</p> <p>監察課に保護者や児童、生徒から直接いじめに係る通報・相談があった事案については、監察課がその保護者や、被害児童・生徒等に直接聴き取りし、望む解決方法を確認している。その後、学校に聞き取りするとともに、加害児童・生徒にいじめ行為停止に向けた働きかけを行う。</p> <p>また、学校がいじめを認知し対応した事案についても、監察課に情報が共有されるため、監察課は独自に当該いじめ事案における学校の対応等を調査し、必要に応じて介入することになっている。</p>
委員	<p>非常に多岐に渡ってご努力いただいていると感じた。</p> <p>一般市民にできるだけ成果が分かるようにすること、数字を具体的に記載している箇所もあるが抽象的な部分が多いため、できるだけ数値化・数量化で示してほしい。できればトレンド、何年間かで上向きか下向きか、今後の見通しなどが分かりやすく示されればと思う。</p> <p>寝屋川市政としての全般的なものをまとめるのは何かと客観的に考えると、システム・ネットワークだと思う。システムが全体を覆うという考え方で何かひとつ、何年にも渡り成し遂げられるようなものが必要ではないか。</p>

	<p>各分野で単位がバラバラであるため、それをネットワークやシステムという形で網をかけられるような、地域包括ケアシステムのような、どれかに依拠するか強化する形で提案や計画があればよいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>今後新しい計画策定の際は、今いただいたご意見を反映できればなと思う。</p> <p>多岐にわたる事業を行う中で、市民や住民に見える化、分かりやすく示す方法についても検討していければと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>次第4 第5次市地域福祉計画の骨子案について</p>
<p>事務局</p>	<p>次第4について説明（資料3・資料5・資料6）</p>
<p>委員長</p>	<p>資料3の2ページ目とりわけ、理念や方向性などについて意見などいただければと思うがどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>是非盛り込んでほしいのは、4ページの施策の方向性、「情報発信」だ。障害者にとって情報取得が非常に難しい。</p> <p>特に視覚障害の方はホームページが見られない場合もあり、最近の寝屋川市でも情報を得るにはまず登録が必要だがそれが難しいとの声がある。また、知的障害の方では、言われている意味や機械操作が分からない場合があり、「誰一人取り残さず」という理念からすれば、情報取得が困難な人がいることを考慮し提供体制の充実はぜひ入れてほしい。</p> <p>寝屋川市はDXを推進し、SNSなどで発信し申請もインターネット化している。LINEでの予約は便利だが、LINEを使わない・使えない人には役立たない。</p>

委員	<p>情報が受け取りにくい人、支援が必要な人にどう支援を届けるかという点で情報発信は非常に重要でありかなりの工夫が必要と考えるため、4ページの施策の方向性はぜひ入れてほしい。</p> <p>基本理念については、どれも良いと感じるが、皆の意見を聞いて一緒に考えたい。</p> <p>情報発信について、私は成年後見に十数年関わり、現在はいわゆる終活をどうするかという話が仕事のメインになっているが、成年後見制度を使わずに人生を終えられるように、予防にもっと力を入れるべきだと考えている。</p> <p>「成年後見制度の利用促進」という言葉が随所に見られ、国の方針であるため出てくるのは分かるが、違和感がある。</p> <p>認知症等で判断能力を失う人が4人に1人というデータもあるが、家族とのコミュニケーションが取れていれば制度利用は少ないはずだ。</p> <p>元気なうちに周知する「予防」活動が重要ではないか。</p> <p>現代はお一人様が増加し、その際に行き詰まる人が出てくる。お一人様とは天涯孤独だけでなく、配偶者と死別し子どもとも疎遠な人、子どもがいない人も含むが、家族がサポートできれば制度は不要だ。</p> <p>予防ができず、地域包括等が動き、調べてみると生活が破綻し金銭もない状況で、財産保護のため後見制度を利用しようにも費用も後見人もいない。法律上、手続きに後見人が必要で費用は市が助成し、市長申し立ても市に手間がかかり半年以上かかるなど、後手後手になっているのが現状だ。</p> <p>そうならないために、予防・周知徹底という情報提供を計画に盛り込むべきではないか。単なる「利用の促進」とは違うのではないか。</p>
----	--

委員	<p>施策の方向性の「地域における支え合いの推進」について、私は社協関係で地域活動をしているが、ここにある共に支え合う地域は良いが地域福祉の担い手不足が深刻である。高齢者が地域を支えているのが現状で、若い担い手が育たない。この点を何とか良い案があれば考えてほしい。</p>
委員	<p>アンケートの「近所の人との程度の交流」は18歳以上対象とのことだが、回答者の年齢層の内訳はどうなっているのか。</p> <p>若い人が答えているのか、高齢者が答えているのかで随分変わってくると思う。</p> <p>町内ではコロナ禍以前は繋がりがあったが、最近は隣人が亡くなっても情報が入ってこない状況で、先日も1ヶ月に亡くなっていた方がいた。葬儀の簡素化もあり、葬儀などが全て終わってから連絡が来る。以前は、亡くなった方を回覧板でお知らせしていたが、今は回さないで欲しいとの要望が増えている。地域の繋がりがますます希薄化していると感じる。</p> <p>昨年10月の一斉防災訓練も、当地域60人参加のうち若い世代はほとんどいなかった。防災への関心も低く、地域の繋がりも希薄化し、何とかしなければと感じている。</p>
事務局	<p>アンケートについては、高齢者の割合が多い。65歳以上の割合は44.6%で年齢構成より若干高い。年齢別に近所付き合いの交流状況を見ると、18～39歳、40～64歳、65歳以上の3区分で見ると、当然65歳以上は「困った時に相談・助け合える人がいる」「家を行き来する親しい人がいる」と回答する割合が高い。例えば「困った時に相談・助け合える人」は65歳以上で29.3%、「家を行き来する人」は20.7%だ。年齢が上がるほど割合は増えるが、「挨拶をする程度」も65歳以上で52.4%おり、親しい人もいるがそうでない人も半数程度いる状況だ。「ほとんど付き</p>

<p>委員</p>	<p>合いがない」は 65 歳以上で 9.4%だが、40～64 歳で 15.9%、18～39 歳で 24.5%と、年齢が下がるほど地域との関係が希薄になるのは事実といえる。</p> <p>園芸福祉ボランティアラブに所属しているが、10 年前は 30 人所属していたが、先輩が 80 歳になりリタイアしていき現在は 8 人で活動し、福祉センター屋上の行事や高齢者施設の庭の手入れなどをしている。</p> <p>思い出深いのは 85 歳の夫婦で入会希望された方で、奥様は足が悪く断念したがご主人が頑張ると参加された。高齢者施設へも自転車で来られ皆と楽しく交流し生きがいにしていった。一年半後突然亡くなったと長男から連絡があり、書斎には園芸ボランティアの活動予定や記録がたくさんあったと聞き、良い人生だったと感じた。</p> <p>このように生きがい、自分が動ける時まで活動することが「誰もが自分らしく、安心して暮らし、共に支え合う地域づくり」につながるのではないか。他の亡くなった先輩方も、施設の方との付き合いや花見客の「綺麗だね」という言葉にエネルギーをもらっていた。</p> <p>高齢者でも生きがいを持ってできるボランティアや活動があるので、一人暮らしの方でも参加できる計画を次の考え方に入れてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>自分の役割を自分のなかで落とし込んだ人は他人にも目を向けられ、理念にもうたわれるような活動につながっていくと思うので趣旨が反映されていけばと思う。</p> <p>一点、ワーディング、言葉遣いの問題として、「寝屋川市らしさ」がどこかに反映されるとよいのではないか。地域福祉計画の目標や目次はどこも似てくるが、自治体によっては基本理念に自治体名を入れ、「誰もが自分らしく安心して暮らせる、寝屋川」</p>

	<p>のように、寝屋川のための計画であることが一目で分かるようにするのも一案ではないか。</p> <p>アンケート調査でも居場所づくりやアウトリーチの必要性という課題の優先順位が高いことが見えているが施策の方向性一覧にそのワードが現状ない。掘り下げれば出てくるが、一覧で見えるようにすることも構成のあり方としてよいのではないか。寝屋川らしさをどこで出すか、具体的な施策で出すのがよいのではないかと思うため、引き続き検討をお願いしたい。</p>
委員	<p>「居場所づくり」について、我々も公民館を開放しているが男性がなかなか来ない。たまに来てても女性ばかりで話が合わず次から来なくなるので何か良い方法はないかと思う。この4月から麻雀クラブを作ったが、男性は来るもののルールを知らない人が多くめちゃくちゃな状況だが、ルールが分からなくても並べて遊んでいた人もいる。トランプ等も毎週水曜に行っているが、集まるのは少数で歌声などもほとんど同じ女性ばかりだ。もっと男性も多く来られるような方法はないだろうか。</p>
委員長	<p>麻雀のルールを知らなくても集まるというのは、先ほど指摘のあった「居場所」を求めているのだろう。年齢層は不明だが、麻雀がしたいという優先順位は低いのかもしれない。トランプでも歌声でも何がきっかけかは分からないがそこは委員各位の腕の見せ所だとも思うので、男女一緒に議論するのもよいかもしれない。男同士で固まっても良い意見は出にくいし、逆もまた然りだ。</p>
委員	<p>老人クラブ連合会の委員長をしているが、後継者がおらず各クラブの委員長がどんどん減っている。いくらこちらが教えて</p>

	<p>も止められず、何とか辞めさせない工夫はないかと思う。私が入会した時は135クラブあったが今年で81になり、会員数も半減している。何か知恵があれば教えてほしい。</p>
委員長	<p>是非、委員会終了後に意見交換などしていただきたい。</p>
委員	<p>4ページの施策の方向、「権利擁護の推進」の一番上に虐待やDV防止などとあるが、寝屋川市に民間のシェルターはあるのか。以前相談に乗った際にシェルターの話が出たが、寝屋川市にあるとは聞いたことがない。</p>
事務局	<p>市内にはシェルターはない。</p>
委員	<p>相談があった場合はどう対応しているのか。</p>
事務局	<p>大阪府に相談受付等の部署があるので、車でそちらへ送迎するなどし、そこから一時保護所やシェルターに送ることになる。</p>
委員	<p>では北河内にはシェルター施設はないのか。</p>
事務局	<p>DVシェルターについては北河内にはないと聞いている。</p>
委員長	<p>他に意見がなければ以上としたい。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールを案内</p>
	<p>閉会</p>